

Economic Monitor

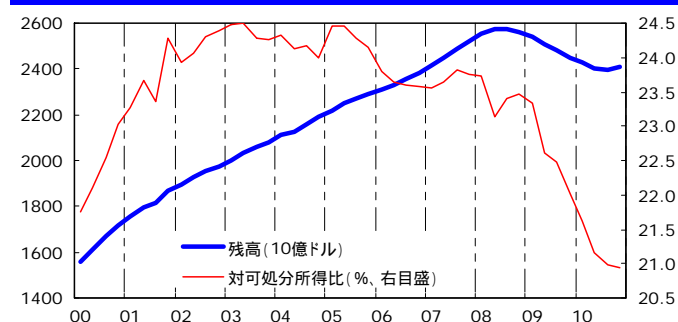
米国の消費者信用残高が9四半期ぶりに増加

米国の消費者信用残高が、2010年10～12月期に前期比年率2.7%と9四半期ぶりに増加へ転じた。自動車ローンが主体の非回転信用が5.5%（7～9月期2.3%）と2四半期連続で増加したのが主因であり、クレジットカードが中心の回転信用は未だ下げ止まったとは断言できない。但し、その回転信用も10～12月期は2.7%と、7～9月期の9.0%に比べ、減少率は大幅に縮小し、月次ベースではクリスマス商戦が好調だった12月に前月比0.3%と実に2年4ヶ月ぶりの増加を記録している。

10～12月期の個人消費は前期比年率4%超の高い伸びを記録したが、主因は自動車販売の前期比年率45%もの急増とクリスマス商戦の好調であった。その両方に、消費者信用の増加が貢献したと推測できる。

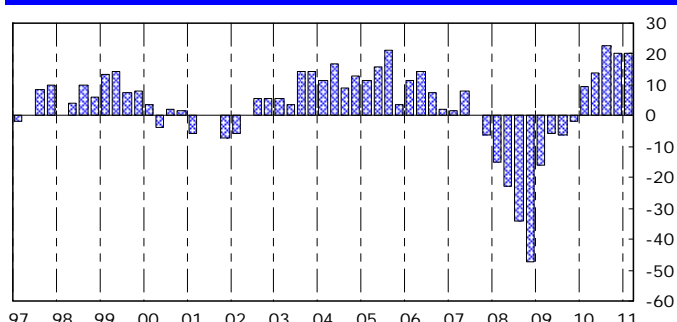
消費者信用残高の増加には、家計側と金融機関側の双方に要因を見出すことが出来る。住宅ローンを含めた金融債務全体では家計の過剰債務問題は未解決¹だが、消費者信用残高に限れば可処分所得や個人消費に対する比率は大幅に低下し、既に住宅バブル前の水準を下回っている。また、消費者信用に対する金融機関側の姿勢も前傾化しつつある。Fedが四半期ごとに行っている金融機関の融資担当者を対象とした調査によると、消費者向け貸出を増やすとの回答が、減らすとの回答を5四半期連続で上回った。未だ過剰債務問題が解決したわけではなく、過度な楽観は禁物だが、個人消費が持続的に拡大するための金融環境は整いつつあると判断できるだろう。

消費者信用残高合計



(出所) Federal Reserve Board, Department of Commerce

消費者向け貸出に関する意欲(増やす - 減らす)



(出所) Federal Reserve Board

¹ 当社は家計の過剰債務問題に目処がつく時期を2011年末と予想している。